

【執筆者プロフィール】

◎ 山本 真由子（やまもと・まゆこ）

◎大阪市立大学大学院文学研究科・准教授、UCRC運営委員

◎専門：平安朝文学（特に漢詩文と和歌）

◎業績：論文に「源道済の詠紅葉蘆花の和歌と序をめぐって」（『国語国文』第86巻第4号、2017年）、「三条左大臣殿前裁歌合について―「遣水虫の宴」の趣向―」（『文学史研究』第57号、2017年）などがある。

◎ 小笠原 愛子（おがさわら・あいこ）

◎現職：大阪市立大学都市文化研究センター研究員、国立和歌山工業高等専門学校非常勤講師、大阪夕陽丘学園高等学校非常勤講師

◎専門分野：中古の仮名散文（歴史物語）

◎業績：論文に「月の賀歌が言祝ぐ栄え ―『今鏡』彰子伝と『大鏡』穩子記事」（『大阪夕陽丘学園短期大学紀要』（62）2019年12月、1-10）、「帝紀及び列伝に見る『今鏡』の時代区分意識」（『大阪夕陽丘学園短期大学紀要』（61）2018年12月、1-11）、「『今鏡』における天皇及び母後の崩御記事」（『大阪夕陽丘学園短期大学紀要』（60）2017年12月 1-11）などがある。

◎ 永井 泉（ながい・いずみ）

◎現職：大阪市立大学大学院後期博士課程、UCRC 特別研究員

◎専門分野：近代の詩歌（特に短歌、童謡）

◎業績：論文に「片山廣子の初期短歌におけるクリスティーナ・ロセッティ受容―『蜜蜂』にみられる『ゴブリン・マーケット』の影響を中心に―」（『比較文学』第62号、2020年）、「『コドモノクニ』における北原白秋と幼児の詩―作品と選評を読む―」（『児童文学研究』第52号、2020年）などがある。

◎ 草生 久嗣（くさぶ・ひさつぐ）

◎ 大阪市立大学大学院文学研究科・教授、UCRC所長

◎ 専門：西洋史学・ビザンツ史

◎ 業績：共著に『詳説世界史研究』（山川出版社、2018年／担当「東ヨーロッパ世界の成立」165-171頁）、論文に「越境する知をささえるもの―ビザンツの情報集積」（『中央評論』第266号、2010年、56-61頁）、「「ビザンツ」帝国の「ローマ人」：アイデンティティの射程（特集 中世のなかのローマ）」（『西洋中世研究』7号、2015年、5-24頁）などがある。

◎ 鈴木 重周 (すずき・しげちか)

◎現職：成城大学グローバル研究センターPD 研究員、UCRC 研究員

◎専門：フランス文学、地域研究

◎業績：共著に、『混沌の共和国—「文明化の使命」の時代における渡世のディスクール』(柳沢史明・江島泰子・吉澤英樹編、ナカニシヤ出版、2019年2月/担当「第3章・郷愁と愛国心—レオン・カーアン『ユダヤの生活』にみる第三共和政期のユダヤ系フランス人」103-126頁)。論文に、「フランスにおける「ユダヤ文学」—ジッドの『日記』を手がかりとして」(『フランス語フランス文学研究』第112-113号、2018年8月、353-368頁)、「ドレフュス事件期の反ユダヤ主義とジャーナリズム—ナントの日刊紙『ロワールの灯台』をめぐって」(『関東支部論集』日本フランス語フランス文学会、第25号、2016年12月、83-96頁)などがある。

◎ 永富 真梨 (ながどみ・まり)

◎現職：同志社大学、摂南大学非常勤講師、UCRC研究員

◎専門：アメリカ研究、音楽学

◎業績：主な学術論文に「日中戦争開始前後の日本における周縁的男性像—灰田勝彦のカウボーイソング〈いとしの黒馬よ〉を例として」(『戦争社会学研究』第3巻、2019年6月、179-198頁)、「Proletariats or Merchants of Death?: Transnational Cowboys and the Crisis of Japanese Communists' Masculinities in the Early 1960s.」(『同志社アメリカ研究』第55号、31-55頁、共著に、『ポップミュージックを語る10の視点』(大和田俊之編、アルテスパブリッシング、2020年2月/担当「第9章・カントリー音楽研究の新潮流」273-303頁)などがある。

◎ 寄本 圭子 (さきもと・けいこ)

◎現職：大阪市立大学大学院前期博士課程2年、UCRC 特別研究員

◎専門：文化資源学、観光学

◎実績：「中崎町の変遷と地域の人々の取り組み—「大阪の記憶」研究ノート」(UCRC 報告書、2018年)がある。

◎ 堀 まどか (ほり・まどか)

◎大阪市立大学大学院文学研究科・准教授

◎国際日本研究、比較文化学

◎業績：著書に『「二重国籍」詩人・野口米次郎』(名古屋大学出版会、2012年)、共著に『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』(ひつじ書房、2016年/担当「比較文学」)、論文に「「特攻隊」とメディア・リテラシー：韓国の日本語教育の現場より」(『世界の日本研究—国際的視野からの日本研究』国際日本文化研究センター編、2017年)などがある。